

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多部制単位制高校の意義をふまえ、生徒や保護者、地域等の期待に応える教育活動を常に研究しながら、進化する学校をめざす。

- 1 本校のあり方や方向性を検討しながら教育活動を推進し、生徒や保護者、地域等の期待に応える学校をめざす。
- 2 自らの将来に展望を持ち、主体的に学ぶ力を身につけた生徒を育てるとともに、希望する進路を実現できる学校をめざす。
- 3 人権を大切にし、自尊感情を向上させるとともに、社会性（規範意識・ボランティア精神等）を身につけた生徒を育て、誰もが安心して学べる学校をめざす。

2 中期的目標

1 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開

- (1) 現状の分析と生徒・保護者等の期待の把握、及び将来構想チームを中心として本校の在り方や閉課程までの課題を明確化して必要な取組みを計画・実施する。
生徒の現状を正確に把握するため、生徒・保護者懇談や家庭訪問など家庭との連携を図る。
- (2) 本校の教育活動への理解を促進するため、広報活動の充実を図る。
編入・転入生徒対象の情報発信の充実
- (3) 職員研修の充実により、常に人権意識と教育力の向上を図る。
- (4) 学校運営協議会や学校教育自己診断などを活用し、保護者・地域等と連携した教育活動を進める。
保護者向け学校教育自己診断の「生徒指導や進路面で、学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」の肯定的回答率（平成29年度76%、平成30年度80%、令和元年度72.7%）を令和4年度には80%以上にする。
地域との連携を深め、地域の事業所等での職場体験やインターンシップを実施する。

2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実

- (1) 希望進路の実現に向けた「学びのシステム」を充実させる。
ア 桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」を実践する。
自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解等の向上
進路未定率の減少（平成29年度8.8%、平成30年度23.3%、令和元年度8.7%）
- (2) 充実した学びなおしの環境をめざす。
ア 多様な学習履歴を持つ生徒の意欲を引き出すため、習熟度別授業編成を強化
イ 希望進路実現のための自学自習の場所提供や補習・講習の充実
ウ 学習意欲の向上を図るため、学外の学習機関との連携や学習評価について研究する。
- (3) 生徒の授業評価や授業公開を通して授業力を向上し、全教科で「わかる授業」の実現をめざす。
授業力向上推進チームを中心として、研究授業・研究協議を実施して授業力の向上をめざす。
生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の肯定的回答率（平成29年度74%、平成30年度70%、令和元年度77.5%）を令和4年度までに80%以上にする。

3 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み及び人権教育の確立

- (1) 「総合的な探究の時間」や特別活動等で人権教育を充実
ア 人権教育でワークショップなどのメニューを開発する。
イ コミュニケーション能力を高めるため、自ら考え発信できる教材を開発する。
- (2) 中退防止PTを中心に、現状分析と生徒指導体制を確立する。
- (3) 教育相談体制を充実し、組織的な支援体制を確立する。
ア 外部機関との連携を通してカウンセリング体制を強化し、必要に応じたケース会議を持つ。
- (4) 生徒が達成感を実感できる自主活動（生徒会活動、部活動）を充実し、社会性を育成する。
ア 生活指導の徹底と自主活動や学校行事などの参加者を増やす環境づくりをめざす。
生徒向けの学校教育自己診断の「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」の肯定的回答率70%以上（平成29年度64%、平成30年度61%、令和元年度72.2%）を令和4年度まで維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開	<p>(1) 保護者等との連携や本校の在り方、閉課程までの課題の検討</p> <p>(2) 本校への理解を促進する広報活動の充実</p> <p>(3) 学校力向上のための職員研修の充実</p> <p>ア 職員研修の実施</p> <p>イ 教職経験の少ない教員のスキルアップ</p> <p>ウ 参加型研修による実践力の向上</p> <p>(4) 「働き方改革」に係る意識改革と業務の整理・効率化</p> <p>(5) 地域連携の一層の推進</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談や家庭連絡を通じて、生徒の状況を正確に把握するとともに、単位修得へと結びつくように指導を行う。 また、HP、メールマガジンの内容を充実させ、必要な情報の提供により登校を促す。 将来構想チームを中心として令和5年9月末の閉課程までの生徒のニーズに応えられる本校の在り方、方向性を検討 <p>(2)</p> <p>真に本校を必要とする生徒・保護者に、本校の学校情報を正確に伝えるため、HP更新回数、公開授業や個別相談、学校訪問などの実施。</p> <p>(3)</p> <p>ア・教員力を向上させるための研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究会等の外部研修の積極的案内と参加及び研修報告会実施及び研修報告座談会の開設 教職員のアイデアを学校運営に反映させるための教職員研修の実施 <p>イ・教職経験の少ない教員を対象とした、授業力及び校務処理能力のスキルアップを目的とした研修(MMP)の実施。そのことにより業務の効率化を図る。</p> <p>ウ・参加体験型を含めた研修を充実させ実践力の向上を図る。</p> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「働き方改革」に係る意識改革のための情報提供を行うとともに、将来構想チームや運営委員会を通じた業務の整理・効率化を図る。 <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域等と連携した授業や「総合的な探究の時間」等を推進する。 地域と連携した防災への取組みを推進し、危機管理に対して生徒の安全を最優先した計画を立てる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談の実施率、家庭訪問件数(前年比を維持) (R01 前期 43.8%、後期 32.1%、家庭訪問 58 件) 学校教育自己診断「学校のHPやメルマガを利用している」70%以上(R01 71.5%) 学校教育自己診断「生徒のニーズ」肯定率90%以上(R01 88.9%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> HP更新回数 80 回以上(R01 65 回) 個別相談満足度 90%以上(R01 99%) <p>(3)</p> <p>ア・人権及び支援教育に係る研修の肯定率 80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研修への参加回数 80 回以上及び研修報告会回数 10 回以上 (R01 参加者 131)回、報告会 5 回) イ・研修(MMP)への関係教員の満足度 肯定率 80%以上 (R01 (-)%) ウ・研修参加者の肯定的評価 90%以上 (R01 100%) <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ストレスチェックの「仕事の負担」の項目の数値 8.2 以下(R01 量的負担 7.7、コントロール 8.1) <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域等と連携した参加体験型学習の実施回数 30 回以上(R01 48 回) 地域と連携した防災研修の実施 (R01 1 回、肯定率 92.0%) 学校教育自己診断「災害時の行動について具体的に知らされている」生徒肯定率 70%以上 (R01 71.5%) 	
2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実	<p>(1) 「学びのシステム」の構築</p> <p>ア キャリア発達を促す「学びのシステム」の構築</p> <p>イ 実社会に触れる学びの実践</p> <p>(2) 授業力の向上</p> <p>ウ 「確かな学力」を育成するための授業研究の実施</p> <p>エ 「確かな学力」を育成する授業の研究</p>	<p>(1)</p> <p>ア・桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」での各教科・分掌等の役割の確認及び育成したい能力・具体的取組みの設定。</p> <ul style="list-style-type: none"> 育成したい能力に基づくアウトカム指標(自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解・将来像)について、年度末に検証を行う。 進路実現に向け意欲を高める「キャリア・ガイダンス(進路担当者面談)」及び「キャリア・カウンセリング(担任面談)」の充実 <p>イ・進路説明会において実社会に触れる学びが実現できるよう内容の充実を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ウ・「授業力向上推進チーム」を中心として、「わかる授業」をテーマに生徒が主体的に取り組む授業をめざした授業研究の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学期間年 2 回実施(6 月、11 月) <p>エ・教科毎に、授業での「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマとした指導方法を研究。授業評価の結果を受け、各教科の授業において工夫した取り組み内容について成果報告を行って情報共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で考えをまとめたり、発表させる機会を設ける。 	<p>(1)</p> <p>ア・各教科・分掌等において育成したい能力および具体的取組等の作成(4 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> アウトカム指標(自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解・将来像)の肯定率について、年度末にその評価を行う。 進路未定率の減少 20% 以下 (R01 8.7%) 学校教育自己診断(生徒用)「進路について考える機会がある」80%以上(R01 84.2%) <p>イ・進路説明会の生徒評価肯定率 90%以上(R01 97.6%)</p> <p>(2)</p> <p>ウ・前後期各 1 回で研究授業と研究協議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 見学回数 1 人当たり 4 回以上 <p>エ・学校教育自己診断(生徒用)「教え方に様々な工夫をしている」80%以上(R01 83.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科の取り組み内容の成果報告会を行う 学校教育自己診断(生徒用)「授業で考えをまとめたり、発表する機会がある」50%以上 (R01 48.2%) 	

<p>3 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み 及び人権教育の確立</p>	<p>(1) 総合学習や特別活動等を活用した人権教育の充実と「生きる力」育成の取組み</p> <p>(2)(3) 支援教育・規律指導・教育相談の三位一体による教育活動の展開</p> <p>(4) 社会性育成のための取組み ア 地域の教育資源の活用 イ 達成感の得られる自主活動や学校行事の充実 ウ 居場所作りと安全・安心の向上</p>	<p>(1) ・人権学習プログラムを「ももだにプロジェクト」の中に位置づけ、参加体験型も含めて系統的に実施。</p> <p>(2)(3) ・「高校生活支援カード」を活用した「個別の教育支援計画」の作成及び活用。 ・支援検討の専門家及び関係機関の協力を得た支援検討会議の実施。 ・教育相談に関して、学校独自で臨床心理士をSCとして招聘。教員組織も、教育相談担当を支援検討担当と別に設け充実を図る。 ・関係機関(司法・行政・福祉)等と連携した支援の実施。 ・授業を大切にすることを念頭におき、支援とカウンセリングの観点を持った毅然とした規律指導を行う。</p> <p>(4) ア・地域等との交流を深め、地域人材の協力を得た授業や講演、職場体験などの充実を図る。 イ・閉課程に向け、生徒数減の中で生徒会・部活動・ボランティアなど自主活動の充実を図るための環境整備とアナウンス ・部活動指導充実のための教員体制の改善を進める。 ・魅力ある行事への工夫・改善 ウ・地域人材の協力を得て図書館の整備を行い、図書館を居場所としての充実を図る。</p>	<p>(1) ・人権学習実施後の生徒評価 肯定率 90%以上 (R01 97.3%)</p> <p>(2)(3) ・「個別の教育支援計画」の作成(必要生徒数) (R01 計10名) ・支援検討会議の実施回数 (必要回数)(R01 3回) ・関係機関を交えたケース会議等の実施回数 (必要回数)(R01 19回) ・指導に対する生徒の納得度 肯定率 80%以上 (R01 82.2%)</p> <p>(4) ア・連携を行った地域等の機関の数 30ヶ所以上 (R01 48カ所) イ・生徒会活動・部活動参加者の満足度 70%以上 (部活動R01 69.8%) ・行事参加者数の満足度 肯定率 80%以上を維持 (R01 校外学習 90%、体育祭 88%、文化祭 93%) ウ・図書館整備の実施 (R01 26回) ・図書室利用者 年間 2500名以上維持 (R01 2633名)</p>
---	---	--	---